

見えない

# 脅威

コロナ禍の山城

新学期の始業式を3日後に控えた精華町の山田荘小。夕刻になって急ぎよ集まった職員会議で、臨時休校の延長方針が伝えられると、教員たちは動揺を隠せなかった。「まだ続くのか」「子どもが不安にならないか」。気持ちをなんとか切り替えて、始業式の打ち合わせを始めた。

式を校舎や教室で行えば、密集が避けられない。「子どもの命を守るのが最優先」と小長谷佳代子校長は運動場での実施を決めた。教員たちは運動場に児童約260人が2分間隔で並ぶよう各位置に印を付けたり、教科書を一人分ずつ袋に詰めたりと、休日返上で準備を進め、当日は支障なく式を終えた。しかし、その翌日には再び休みとなり、学校は静けさに覆われた。

新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、政府は月末全国の小中高校に臨時休校を要請し、山城地域の各学校でも3月3日から一斉休校に入った。

当初は春休みまでの予定が、感染に歯止めがかからず、

## 長期休校問われる対応

延長に。京都府は4月の入学式・始業式以降の再開を一度は決めたが、保護者らの不安の声に押されるように再び休校に。さらに4月30日には、期間を5月末までとする3度目の延長が決まった。「三転三転する方針に学校現場は混乱し、その度に対応に追われ疲労の色を濃くしている。」

異例の長期休校で、親が共働きの家庭など行き場のない子どもの居場所の確保が急務となっている。

現状に危機感を抱き子どもを掛けているが、指導員の時間外勤務が続くなど現場はギリギリの状態だ。

山城地域では、自治体が放課後児童クラブを午前から開き、学校の教室などを利用した一時預かりも実施している。ただ、「3密」を避ける必要もあり、利用自粛を呼び

現況に危機感を抱き子どもを掛けているが、指導員の時間外勤務が続くなど現場はギリギリの状態だ。

山城の各教育委員会はプリントなどを基本に自宅学習を支援するが、互いの顔が見えず戸惑う子どもも多く、オンライン授業を検討する動きも出ている。木津川市も動画配信に向け、保護者にアンケートを行うなど準備を進めているが、「全ての子どもが動画を視聴できる環境づくりが先決」(市学校教育課)と頭を悩ませる。

### ⑤ 混乱



① 新型コロナウイルス感染防止のため、運動場で行われた始業式(4月6日、精華町桜が丘2丁目・山田荘小)

② 子どもの居場所として授業の時間外も開放している学習塾「サポート」(京田辺市河原御影)

もめることが発端に影響する場合もある。自宅以外に居場所が必要な子どもを守ることは「重要」と訴える。

休校期間中は授業が受けられず、失われた学習機会をどう補うかも問われる。

山城の各教育委員会はプリントなどを基本に自宅学習を支援するが、互いの顔が見えず戸惑う子どもも多く、オンライン授業を検討する動きも出ている。木津川市も動画配信に向け、保護者にアンケートを行うなど準備を進めているが、「全ての子どもが動画を視聴できる環境づくりが先決」(市学校教育課)と頭を悩ませる。

仮に6月から学校が再開されても、夏休みまで残り2カ月ほど。授業時間確保のため、宇治市は夏休みの短縮を決め、城陽市や久御山町、宇治田原町でも検討を始めている。

小学高学年の娘がいる宇治市五ヶ庄の湯浅真由美さん(37)は「休校中は学習意欲が続かず、勉強の遅れが心配」と不安を口にしている。一方で「休校期間を子どもにとって空白の時間にしたくない。この経験を有意義なものにするため、親も真剣に考えなければ」と子どもの未来に思いを寄せた。(森田明理)